

はたち 二十歳の門出

『平成23年湯河原町成人のつどい』
245人が新成人に!!

社会教育課 ☎62-1125

- ◆日時 1月9日(日) 11:00～
(10:20受け付け開始)
 - ◆会場 湯河原観光会館
 - ◆内容 式典、写真撮影、記念のつどい
- ※当日は案内状を必ずお持ちください。
※駐車スペースはありません。お車でのご来場は
ご遠慮ください。



平成17年度湯河原中学校卒業生の卒業文集より

『成人式を迎えて』

湯河原町成人のつどい実行委員 やました ゆきこ 山下由希子さん

この度私も成人式を迎え、大人としての第一歩を踏み出すこととなりました。大人の仲間入りを果たしましたが、正直なところ、気持ちとしてはまだその実感はありません。生活が大きく変化するわけでもなく、目に見えて変わることと言えば、喫煙や飲酒、選挙権といったものが認められることくらいです。しかしこのような権利が認められる年齢になったからこそ、より一層大人としての自覚をもった行動、責任ある行動が求められるようになります。今までは親に助けられてきたことも、これからは自分で解決し、自立していかなければなりません。

現在私は大学に通っています。湯河原に家族とともに暮らしているため、家事を自分自身でするわけでもなく、学費などの面から考えてみても親に頼り、家族に甘えたまま生活しているように感じます。大学を卒業した後の自分の姿も想像できず、未熟なことばかりで、周りの方の支えなくしては生活できません。だからこの二十歳という節目に、もう少し自分に厳しく、まわりの人には優しくできるようになりたいと思います。

この20年間を思い返してみると、楽しくうれしいことも、辛く悲しいこともありましたが、たくさんの経験ができました。中学生のころを思い返せば、特に部活動では顧問の先生とのもめごとばかりでした。今思えば情けなく、恥ずかしいことですが、納得のいかないことがあれば、すぐに先生に対して暴言を吐いたり、わがままばかり言って困らせたり、迷惑をたくさんかけてしまいました。それでも先生は、私たちを支えてくれて、今では感謝の気持ちでいっぱいです。さらにこの部活動を通して、仲間の大切さ、協力することの大切さ、努力することの大切さなど多くのことを学び、特に「人とのつながり」の大切さを強く実感しました。家族や友人、先輩、先生方がいたからこそ、今の私があります。私にとって「人とのつながり」というのは、生きていく上で欠かすことのできない一番大切なものです。だからこそ20年間の多くの出会いに感謝して、常に感謝の気持ちを忘れずにこれからは大人として過ごしていきたいと思っています。

『大人への扉』

湯河原町成人のつどい実行委員 すえまつ こうだい 末松 広太さん

生まれて20年目の節目の年。私は、大きな扉の前に立っている。その扉は、子どもから大人になるために通らなければならない重い扉だ。私一人の力では開けることができない。どうしよう、と私が悩んでいると、周りに、私がこの20年間に会った人たちが集まっていた。私はその人たちの顔を見渡す。

友だちがいる。いつもお互いの気持ちをぶつけ合い、共に楽しんだり、時には喧嘩をしたりすることもあった。私が悩んでいると、いつも温かく手を差し伸べてくれた。そんな友だちの顔が、そこにはあった。

学校の先生、先輩たちといった恩師がいる。学問や、社会へ出るための礼儀を授けてくれて、いつも親身になって私の将来を考えてくれたり、厳しくしかってくれたりもした。いろいろと迷惑をかけてきたが、私を温かく見守っていてくれた。そんな恩師の顔が、そこにはあった。

そして、一番近くにいてくれたのは、家族だった。生まれてこの20年間、たくさんの愛情を注いでもらった。小さいころは駄々をこねたり、わがままを言って困らせたりもした。部活動の時には、私より早く起きてお弁当を作ってくれ、遠い試合会場にもかけつけて応援をしてくれた。受験の時も、不安で心が折れそうな時にそばにいてくれて、「大丈夫」と声をかけてくれた。ここまで育ててくれた家族。そんな家族と一緒にいることができ、これ以上の幸せはない。私の一番の宝物である家族の顔が、そこにはあった。

私が今まで出会ったたくさんの人たちの顔がそこにはある。私はそこで、今の自分がこの扉の前に立っているのは、私一人の力では無理だったと気付かされる。私の周りにいる人たちの支えがあってこそ、今の私がいるのだと確信したのだ。すると、周りに集まっていた人たちが、私の眼前に立ちちはだかる重い大きな扉を押してくれている。子どもから大人になるための扉を。扉は、徐々に開き始めた。

私は、この人たちへの感謝の気持ちと、大人になる決意を胸に秘め、一緒にこの扉を押す。扉の先に広がる、新しい世界を見るために。